

素愚 南部 栄司 (庚韻)

富嶽登攀

富嶽登攀 ふがくとうはん

登攀天外白冠呈 とうはん てんがい はっかん てい

半嶺踏雲雷鼓聲 はんれい くも ふ らいこ こえ

至大至高雙界在 しだいしこう そうかい み

人間宇宙繫奇崢 じんかん うちゆう きそう つな

通釈

登っていくと、はるか高いところに、白雪のいただきが見える。山の中腹で、足下に雲を踏んで歩けば、下から雷の音が聞こえてくる。とてつもなく高く大きな山には、二つの世界がある。俗界と宇宙とを、美しい不思議な山がつないでいる。

語訳

富岳 富士山。
登攀 けわしい高いところによじ登る。
天外 はるかに高いところ。
半嶺 山の中腹、山腹。
雷鼓 雷のとどろく音。
双界 二つの世界、別世界。
人間 俗界、俗世間。
崢 高くけわしい峰、山。

